

農業者が稲作に関する様々な情報を一元的に利用できる仕組みづくりの実証 (スマート農業技術の開発・実証プロジェクト)

事業概要

企業間のデータ連携の実用化を検証するため、2018年5月に井関農機、キセキ信越、スカイマティクス、国際航業、ウォーターセルとともに、「スマート農業企業間連携実証プロジェクト」を立ち上げ、井関グループのICT田植機やICTコンバイン、国際航業の人工衛星、スカイマティクスのドローンなどから得られた情報を、ウォーターセルのアグリノートで一元管理するとともに、農業データをフル活用することで、生産性向上や経営改善に取り組むことが可能となった。



事業詳細

事業名称	新潟市スマート農業企業間連携実証プロジェクト		
事業主体	新潟市		
支援省庁	農林水産省	支援事業名	スマート農業技術の開発・実証プロジェクト
関係団体	新潟市、井関農機、中セキ信越、スカイマティクス、国際航業、ウォーターセル		
備考	平成31年4月1日より、本プロジェクトは農林水産省の委託事業「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に移行。実証圃を水稻の全圃場に拡大。		

実績・効果

◆ICT田植機及びICTコンバインにより取得した農業データ(H30年度)					
区分	面積	減肥率(10a当り減肥量)	水分平均	収穫重量	乾籾重量
実証圃①	36a	14%(3.5kg/10a)	27.40%	3,003kg	676kg/10a
実証圃②	36a	23%(5.8kg/10a)	22.20%	2,808kg	678kg/10a
慣行区	11a	0%(0kg/10a)	18.40%	834kg	672kg/10a

- ・各社が自社規格で管理するデータシステムの垣根を取り払ったことで、農業者が一元的に利用できる情報が飛躍的に増え、生産技術や水稻の品質向上に繋がった。
- ・情報の一元化を図ることで、圃場一筆毎の農業データを取得するとともに、評価・検証、及び次年度の取り組みに向けた対策が打てるようになった。
- ・現在、国内のスマート農業では、大手企業や農業ベンチャーなどが新たな技術開発を進めているが、1社単独ではその取り組みに限界がある。複数の企業が互いに情報を共有し、ノウハウを生かし合うことで、離れた場所から農機の位置や車速を把握したり、熟練者が操作した農機の軌跡を新規就農者が作業後に画面で確認できるなど、生産技術の向上に役立terことも可能だと分かった。